

保育おおさか

平成19年11月1日 第387号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

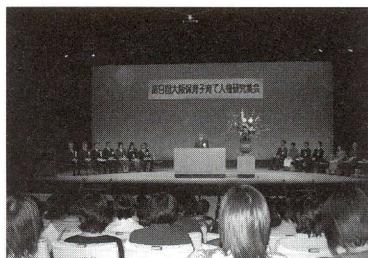
第9回 大阪保育子育て人権研究集会

重要視される「養護と教育の一体」への取り組み

保育士の専門性を問いつづけよう

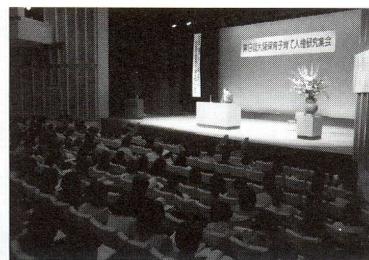
一保育指針改定中間報告を踏まえて

第9回大阪保育子育て人権研究集会が10月20、21の両日、四條畷市で開催されました。第1日目は基調講演と特別講演、2日目は分科会(2面に掲載)が行われ、2日間でのべ1380人余りが参加。「子どもの最善の利益」の視点から「養護と教育の一体」という発想の重要性が強調されました。



第1日目全体会

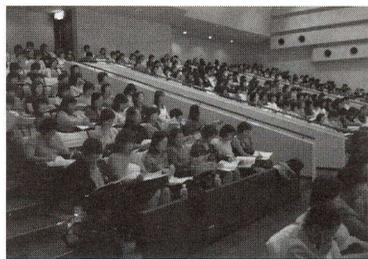
人間の基礎を育てる乳幼児期の保育・教育の重要性が見直される中、一人ひとりの子どもが主体的に遊び学ぶ生活を創り出すために、いま「保育所と幼稚園の連携や小学校との連携」「子どもの育ちを支える家庭・地域への支援の必要性」「保育者の資質と専門性の向上」が叫ばれています。その一環として文部科学省から「幼児教育振興アクションプラン」が出され、厚生労働省では保育所保育指針改定に向けて中間報告を出しました。この指針改定検討会の議



記念講演、特別講演が行われました

論をもとに、「子どもの最善の利益」の視点から養護と教育の内容を捉えなおし、保育の方向性を確かめるのが今回の研究集会の趣旨です。四條畷市市民総合センターが会場となった第1日目の全体会では、まず大妻女子大学副学長で、保育指針改定検討会座長でもある大場幸夫氏が「いま、保育者・教師がこどもの傍らに在ることの意味を問う」をテーマに基調講演。大場氏はその中で「子どもたちに身近な存在である保育者のあり方はそれ自体が大事な検討課題」と指摘した

うえ、「養護と教育の一体」という発想と取り組み方が重要視される必要があり、「保育者がひとりの人間として子どもの傍らに在ることの意味深



全体会。約580人が集いました

さを考え直したい」と強調されました。特別講演は「保育者の専門性の構築と保護者支援」をテーマに、同じ保育指針改定検討会委員で淑徳大学社会福祉学科教授の柏女霊峰氏。国家資格としての保育士資格の課題を外からの資質向上へのアプローチとし、内からは保護者支援の視点も含めて「保育者として何をどのように学んでいくか」を、「新保育指針」中間報告を踏まえながら分かりやすく述べられました。両先生は保育士の専門性とは何かを問い続ける重要性・必要性を投げかけられ、私たちにとって大変大きい課題として受け止めなければならぬと認識させられました。(編集委員 K・T)



今シーズンのプロ野球セ・リーグで、巨人が5年ぶりに優勝したのはご存知の方も多いでしょう。でも、今年はずっと違いました。クライマックスシリーズというのがあり、結局リーグ2位のチームがパ・リーグとの日本シリーズに駒をすすめました。これには違和感を持ちました。1年間144試合戦い1位になったチームが、2位と3位の勝者とたった5試合を戦い3敗すれば涙をのまなければなりません。

適切ではありませんが、例えばバラエティのクイズ番組でトップと2位以下の点差が150点以内の場合に、最終問題で「200点あげます」と言っているようなものではないでしょうか。シーズンの最後に盛り上がるのは良いことだと思えますし、ペナントの順位とはまた別のものとして実施されたのでしょうが、1年間苦しい戦いを勝ち抜き1位になったのにとすると、ファンとしてはちよつと耐え難いですね。(編集委員 N・N)

大阪保育子育て人権研究会2日目は四條畷学園短期大学で開催され、800人余りが参加しました。8つの分科会と講座が行われました。

(記事は第2、第6、第7分科会)

地域の「子育て力」を取り戻す「原動力」に

第2分科会

第2分科会では、子ども情報研修センター所長の田中文字子氏、神戸母子交流研究会マネージャーの中島尚美氏を助言者として、「保育園・幼稚園・支援センターの子育て支援」をテーマに意見交換されました。

「今求められている子育て支援とは何か」について、①地域や関係機関との連携②出会いを求めない保護者との出会い作り③保護者同士のつながり作り④の3つの視点から、大東市の公立保育園と支援センター、枚方市



熱心にディスカッション

の常称寺保育園、まりも保育園からそれぞれ報告がありました。

大東市では、家庭支援推進保育士が家庭訪問などを通して子育ての不安や悩みをもつ親に手を差し伸べておられます。また枚方市の2園では一時・特定保育、支援センター事業を通じ、保護者が心地よい人間関係を結ぶような場所やきっかけを提供、安心して子育てができるよう支援されています。

午後からはグループ討議がわれ、保育園は地域の「子育て力」を取り戻す原動力にならなければとの実感を深くしました。(ギンガ保育園Y・M)

「食育を考える」保護者の意識を高める活動が課題

第6分科会

第6分科会では「食育を考える」をテーマに枚方市の禁野保育所、寝屋川市のひまわり保育所、堺市の福泉中央保育所の

3カ園から食育の取り組みについて報告があり、菜園活動やクッキング、保護者への試食会、五感を使っての遊び、パネルシアターなどを使った3色栄養素の話やわかりやすく楽しく伝える取り組みなどの実践活動が紹介されました。

後半はグループに分かれて各園の実践や課題について意見を交換。その中で、保護者の食に対する意識が低下しているという意見が多く、食に関心をもってもらうための活動などが大きな課題となりました。

助言者の京都府立大学・大谷貴美子氏、日本食文化環境研究所・神木千鶴氏から「家庭では『食』は親から子への愛情表現の1つであり、人間関係、信頼関係を築くうえで大切。お菓子の手作りやパーティーなど食に関するイベントに保護者を巻き込んで親自身にも興味をもってもらうことが必要」とアドバイスがありました。

「食育」とは子どもたちの身体の成長だけでなく、心もいっしょに育てる力をもっていることを知ることができました。より一層興味をもっても

らうため保育士も食についてもっと深く学び、食べることの楽しさ、大切さを伝えたいものです。(大野台保育園W・S)

育ちを見通し 幼保小の連携を促進

第7分科会

第7分科会では、「0歳からの育ちを見通した保育園、幼稚園、小学校との連携」をテーマに、交野市のあまだのみや幼稚園、大阪市の玉出幼稚園の報告があり、意見交換が行われました。

多くの子どもは小学校入学後、自分の机があること、管理物が増えること、チャイムで動くことなどさまざまな戸惑いを抱えますが、就学前に校舎、家庭見学をすることでこの戸惑いは軽減されるといわれます。



研究会2日目に800人余りが参加

就学前見学を行う園は多いですが、年間を通して連携とまでは行かないのが現状です。保育園と小学校が交流を続けている事例では、双方の職員との連携が交流の実現に繋がっており、園側が小学校の門戸を押し開けるくらいの積極さが必要という指摘がありました。

イムに縛られず、「今だからこそできる」子ども主体の活動を大切に、赤ちゃんからお年寄りまで様々な人と出会える場であることが求められています。育ちを見通して、いま何を育てるかを明確にすることも私たちの役目だと思われま。

地域貢献事業準備委員会では、地域貢献事業の意味と必要性について各園に周知するための準備を進めています。11月の保育部会常任委員会で各ブロック代表の方々の研修が行われ、今後は順次ブロックへ展開される予定です。

このような相談員を養成するには、800名余りの育児相談員認定者のうち、現在、『府内の保育園で実際に活躍されている相談員が何名いるのか』『どのような活動をされているか』などを把握する必要があります。

育児相談員制度を活用へ 近くアンケート調査実施 —地域貢献事業準備委

地域貢献事業の柱の一つとなる相談業務の担い手には、既存の育児相談員制度を活用したいということを先月号でお伝えしました。

準備委員会では近日中に育児相談に関するアンケート調査を行う予定です。ご協力をお願いいたします。(編集委員N・S)



休日保育（自主事業）
に取り組んで
—態勢整えば
他園児も対象に
「摂津ひかり保育園」

「三六五日保育します」
こんなキャッチフレーズ
で 摂津ひかり保育園は
平成18年6月1日に開園
しました。

通常保育・休日保育・
学童保育・一時保育・支
援センター・病後児保育
と順にスタート、学童保
育と休日保育は自主事業
です。



保育園を新設する
にあたり、同じ法人
内で働く保育士一人
ひとりが「こんな保
育園にしたい」とい
う思いを出し合いつ
くりあげました。
休日保育は少数で
すが、以前から保護
者からの要望があり
ました。ただ、既存
の保育園では職員配
置やローテーション
の問題などでなか
な踏み切れなかつた
のが実情です。



自主事業で休日保育を
どこまで伸ばせるか？
いまのところ少人数です
が、ニーズはあります。
しかし、人件費、光熱費
などを考えると収支は現
状ではマイナスです。
現在、対象は当園の園
児のみですが、時折、他
施設の方や一時保育で休
日保育を利用したいとの
問い合わせがあります。
職員からは「もうすこし
園児が多くても大丈夫」
との声があるのも事実で
すが、現時点で他施設の
園児はお断りしています。
ただ、法人内で3つの保
育園がありますので受け
入れ態勢が整い、休日保
育の希望者を募れば、園
児はもちろん、保育士の
確保もでき、他園の園児
を対象とすることも考え
られます。
摂津市内で現在、休日
保育を実施している保育

今後の課題と展開

今後の課題と展開

平成18年度の実績（別
表）は6月、7月とも利
用者がなく、様子見の雰
囲気でしたが、8月から
利用者が始め、秋も過
ぎ12月31日の大晦日と正
月三が日にピークとなり
ました。
休日保育の保育時間は
午前9時から午後5時ま
で、延長なし。給食はレ
トルト食品が弁当を選択
利用日の2週間前に予約
してもらいます。また、
申込書に勤務証明を添付
してもらいます。



お知らせ

昨年度作成の「来て、
見て、保育園」のパンフ
レット（無料）について、
本年3月号「保育おおさ
か」で案内いたしました
が、数に余裕があります
ので再度案内させていた
できます。
リーフ
レットで
は、保育
園Q&A
や1日の
流れなど
をわかり
やすくま
とめてい
ます。ま
た、防犯・
防災情報

や各園の情報もご覧いた
だける「よい子ネット」
の登録もQRコードから
アクセスできます。さら
に最終面には各園名を記
載できるようスペースを
設けています。
ご入用の方は同封の申
込用紙にご記入の上、F
AXでお申し込みくださ
い。

大阪府保育協議会
大阪府認定
TEL 06-6782-9001

平成18年度実績

月	6月	7月	8月	9月	10月	
利用者数	0	0	3	4	1	
月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	0	3	22	6	6	45

ブロックだより

北大阪ブロック

やればできる子育て支援 〜研修会で貴重な報告

第3回子育て支援研修会が8月31日、OBP内MIDタワーで行われました。講師に中部学院大学大学院教授の寺見先生を迎え、子育て支援の重要性についてアドバイスを

保育園をたずねて

356

堺市

地域環境生かし「子ども の育ち」をサポート

三原台保育園は堺市の民営化「第一期園」として、平成13年から引き続き開園された保育園です。公園・幼稚園・小学校・中学校・医療センター・地域会館ショッピングセンターなどと近接しており、地域の中で子どもの育ちをサポートしているという実感がわく環境です。



園児たちの元気な声が響きます。

一昨年には園舎建て替えが完了、定員も百五十名と増員し、その役割拡大に取り組んでおられます。

菜園と食育活動・さまざまな運動機能の向

また、中学校区を軸とした子どもの育ち支援という視点から「幼保連絡会」を立ち上げ、就学に向けての情報交換や、交流協力などの連携促進と、健全育成協議会を含むロングランの子ども育ちの実践へ積極的展開が進められている園です。
(編集委員 S・S)

をいただきました。実践例の発表は保育現場で子育て支援を行っている担当保育士にお願いしました。「園内での子育て支援」は錦保育園の田中先生、「園外での子育て支援」は三ツ島保育園の宮崎先生、「在宅支援」は東三国丘保育園の斉藤先生が担当しました。それぞれの発表者から具体的な取り組み内容や保



講師の寺見陽子教授

護者・職員間での共通理解の難しさ、運営上での悩み・苦勞への独自の対処法などが報告され、現場の生の声がうかがえる貴重な研修となりました。

参加者も「子育て支援は難しくない。日常の取り組みひとつでやればできる」と勇気づけられました。

今後、各園で様々な支援事業に取り組んでいただき、北大阪から子育て支援活動をさらに発信できよう大いに期待します。(古川園 H・O)

堺ブロック

愛情を持つて育てることが重要

〜堺市園長対象研修会

園長対象の「子ども相談所からの報告」研修会が10月16日、子ども相談所主幹の坂本洋子氏を講師に招き堺市総合福祉会館で行われました。

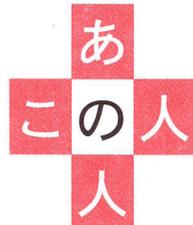
堺市子ども相談所は昨年4月、堺市が政令指定都市となったことに伴い開設。虐待や非行問題から子どもの安全、安心、権利を守るための24時間、365日の専門相談を実施しておられます。一時的に子どもを保護する施設「キッズステーションさかい」も今年8月に併



約60名が参加

設されました。相談内容は障害に関するものが2748件、育成が555件、養護が493件、虐待が424件、その他が260件、非行が177件。平成11年か

大阪府社協の前事務局長で、3月末に定年退職された佐藤貞良さんは現在、関西福祉科大学で教鞭をとっておられます。社協在職中は改革期の社会福祉法人再生をめざし、自主監査事業や苦情解決事業、第三者評価事業など施設福祉に関わる新事業に積極的に取り組みました。本年度、保育部会で



は地域貢献事業の構築に向けたプロジェクトチームを発足させました。これも民間保育園の経営基盤確立のため取り組みなければと熱く語った佐藤さんの発想によるところが大きいものがあります。今は若い学生相手に楽しい教員生活と追い追われる忙しい毎日とのこと。佐藤さんの今後ますますのご活躍を期待申し上げます。(N・S)

らの推移で重大事件を契機に虐待の相談が急増し、従来の養護相談(親の病気など)は減少傾向にあるとのこと。講師の坂本氏は「親が虐待を受けて育つとその子も虐待をする傾向がある。愛情を持つて育ててあげることが重要」と締めくくられました。(編集委員 K・M)

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会
保育部 会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762-9001
発行人 野野 治 男
編集 永宮 勲